

令和元年11月19日

「義務教育学校でまちづくり・人づくり」

島根大学教育学部 木下公明

1 鳥取市の校区再編・学校統合を振り返る

2 義務教育学校とは？

・教育論と財政論で考える

3 「まちづくりは人づくり 人づくりは教育から」

平成の大合併と教育問題

地域色がなくなった学校(鳥取市)

地域と行政の関わりが薄くなる 郷土愛 人とのつながり
 地域の願いが色濃く出ていた旧町村の学校づくり
 学校の命が曇られなくなった...広範囲な人事異動
 少子化問題等による校区再編問題・学校存続問題
 鳥取市校区審議会...校区編成に関する取り組み
 ・学校規模 ・通学区域 ・適正配置



小中連携、一貫教育を推進する国の姿勢

(平成26年12月22日答申より)

- 教育基本法、学校教育法の改正による義務教育の目的・目標規定の新設。
- 教育内容や学習活動の量的・質的充実への対応
- 児童生徒の発達の早期化等に関わる現象
- 中学校進学時の不登校、いじめ等の急増など、「中1ギャップ」への対応
- 少子化等に伴う学校の社会性育成機能の強化の必要性

【学校教育法】

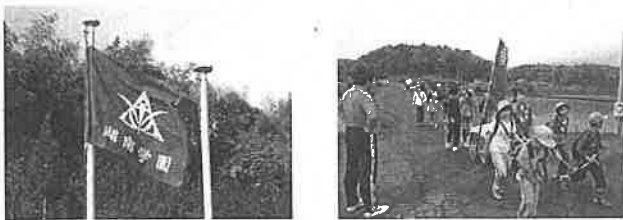
1 学校の種類と管理の基本原則

第1条 この法律で、学校とは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。

(平成26年12月22日答申より、「中1ギャップ」への対応、義務教育学校) (改訂版)

学校存続の新たな選択肢

鳥取市立湖南学園の場合



湖南教育コミュニティの拠点として人づくり・地域づくりを担う
 ~一貫校で人づくり・地域づくり~

9年間のスパンで、子どもの成長の教育内容・教育活動を
 考えて教育課程を拡げ、人との関わりを拡げる

◇一貫校開校の契機

「湖南に一貫校を」

学校の存続に対する地域の意向
 地域振興を図る地域の自主的な取り組み

鳥取市小中一貫校推進事業の開始

児童生徒の減少に対し義務教育を一体として
 とらえる施策

教育論...① 中一ギャップを解消する方策

② 少子化による教育効果の減少

財政論...① 少子化の進展や地域社会における共同体意識の低下等
 によるマイナス要因の減少策

② 財政上の問題

湖南学園のミッション

湖南教育コミュニティの拠点として人づくり・地域づくりを担う
 ~一貫校で人づくり・地域づくり~

人づくり:9か年の成長を学校・保護者・地域で共有

確かな学力+たくましく豊かな心

地域づくり:地域と共に育ち発展する学校

連携・協力⇒協働へ

ミッション1 一貫校で人づくり

◇ブロック制の導入

從小来 **1ブロック** 小学校 6 (1年~6年) **中1ギャップ** 中学校 3 (1年~3年) 不登校生徒

本校 初等 4 (1年~4年) 中等 3 (5~7年) 高等 2 (8, 9年)

人とのかかわりを増やし、スムーズな接続を

人間関係固定化を、ブロック制の導入で克服

教職員、PTAも人間関係固定化が緩和され、活動も効率化される

ミッション2 一貫校で地域づくり

◇校章・校歌の制定

教職員・保護者・地域住民から成る「校章校歌制定委員会」を設立。公募をかけ、協議して決定。

湖南学園校章



湖南学園校章 (5年生以上)



「湖南学園」校章と校歌決まる
 制定式で職員が披露
 鳥取市内の小・中一貫校の校章と校歌を公募して決定した。制定式は、制定委員会のメンバーが出席し、校章と校歌の披露が行われた。制定委員会は、制定委員会のメンバーが出席し、校章と校歌の披露が行われた。制定委員会は、制定委員会のメンバーが出席し、校章と校歌の披露が行われた。

全校児童生徒数および校区外児童生徒数の推移 (湖南学園)

